

狂言学習（6年生）《NO.2》

10月24日（火）は、狂言学習の立ち稽古初日でした。子どもたちは、セリフを言いながら動作をするのに精一杯でした。今後は、それぞれのキャラクターの置かれている状況をさらに把握しながら、それぞれのキャラクターの心情を理解した演じ方にチャレンジしていきます。



《山口先生のご指導より》

- 姿勢が大事です。背中を伸ばしましょう。
- セリフが届くように遠くまで聞こえる声で伝えます。お腹に力を入れて、腹筋を使います。
- 大きな声よりは、お腹に力が入った声を出します。
- ことばをはっきりと話します。特に、お腹に力を入れて（腹筋を使って）音を切りまします。語尾を伸ばさないように。
- 母音を意識して発声をしましょう。
- 口の開け方を意識して話しましょう。
- 意識して声を出すか、出さないかで、声に違いが出てきます。
- 間を取りましょう。



- 嘘ごとを表現しているの、オーバーなアクションで行います。
- 早口ではなく、説得力があるように話します。
- 怒っているセリフは、ゆっくりと話しましょう。
- 《附子》では、『附子』がどんなものを想像して演じましょう。

- 観ている人（聴いている人）に伝わらないと、意味がありません。
- ことばは、ゆっくりと話するようにします。早口は、伝わりにくいです。
- 演じ手（話し手）は、観客に、聴いてほしいという気持ちをもって、ことばを発しなければいけません。

- 舞台上では、観客の視線を一身に集めています。指先まで意識しましょう。
- お辞儀は、膝ぐらまで手をスライドさせます。
- 長ゼリフの時は、正面を向いて話します。
- 観客に背中を向けないようにします。



“くろう どんみりとした附子”を食べているシーンです。大の毒と思っていたものが、実は・・・。



2人の息を合わせています。



『柿山伏』



山伏は、威厳をもって演じるようにしましょう。背中をまっすぐ伸ばしましょう。セリフは、ゆっくりと話します。
柿を食べるときは、ゆっくりと食べます。

畑主は、呼びかけと独り言の区別をしながら話しましょう。
呼びかけは、語尾を上げます。遠くへ呼びかけているように話します。
独り言は、語尾を下げます。

